

1 単元のデザイン

本単元の目標

これまで調べてきた田面船についての情報を再度整理・分析し、三成小学校の児童に向けて田面船について伝えるために進んで表現の方法を工夫することができる。

児童について

本学級の児童は、2学期に、国語科と総合的な学習の合科的な単元で、尾道に伝わる田面船について調べ、地域や市役所に向け発表している。その際、情報を整理し、伝えたいことに合わせて表現することは学習したが、調べた情報を分析して取捨選択し、相手に合わせてまとめる体験は不十分である。一方、学習を他者に役立てたいという思いは強く、学習材に向き合う姿勢は非常に前向きである。

本単元で身に付けたい資質・能力

【思考力・表現力・判断力】

- これまでに収集した情報を分析し直し、伝える相手に合わせて表現することができる。

【主体性・積極性】

- これまでとは違う視点で学習材を見つめ、進んで情報を見直したり表現を工夫したりしようとする。

【自己理解】

- 自分達の学習や活動が、地域のために役立っていることを実感し、学んだ方法を今後の学習に役立てようとする。

教材について

本単元で追求の素材となる「田面船」は、尾道に伝統的に伝わる郷土玩具であるにも関わらず、現在人々から忘れられようとしている。また、児童玄関にも田面船の模型や説明が置いてあるが、それに興味を持ち、知ろうとする児童はほとんどいない。こうしたことから、課題意識や使命感を持ちやすい学習材である。実際、児童は田面船を廃れさせないために役立ちたいという意欲が高まり、持続している。2学期までに、地域や市役所の人に向けて発表しているが、伝える相手を三成小学校の児童に変えることで、改めて学習材と向き合い、これまでに収集した情報を分析し、まとめ直すことができると考える。

指導について

本単元の指導において、主体的な学びの充実を図るために、次の2点を工夫する。

第1は、発表の目的を明確にすることである。「だれに」「何のために」「どんなことを」伝えるのかをはっきりさせ、話し合いの際にも、常にこのことを念頭に置き論点がずれないように指導する。

第2は、思考ツールの活用である。話し合いの内容を視覚化するために、KJ法やXYチャートを活用し、他者との類似点や相違点を見付け、仲間分けすることで共通認識を図り、深い学びを実現する。

2 単元の評価規準

思考力・表現力・判断力	主体性・積極性	自己理解
○これまでに収集した情報を分析し直し、伝える相手に合わせて表現している。	○これまでとは違う視点で学習材を見つめ、進んで情報を見直したり表現を工夫したりしようとしている。	○自分達の学習や活動が、地域のために役立っていることを実感し、学んだ方法を今後の学習に役立てようとしている。

3 単元構想図（単元計画と評価）

本単元の学習の流れ（全18時間）

〈単元の入り口の意識〉

2学期には地域や市役所の人に向けて発表をして、ぼくたちの思いを伝えることができたよ、でも、三成小学校の人はあまり知らないままだよね。全校に向けてもぼくたちが考えたことを伝えたいほうがいいんじゃないかな。

次	学 習 内 容	評 価			
		思	主	自	評価規準
一	○課題の設定（2） ・三成小学校の先生達の田面船の認知度から、三成小学校の児童の認知度を推測し、課題を設定する。 ・学習計画を立てる。		○		○提示された資料から疑問を見だし、単元を通して学習したい課題を設定しようとしている。
二	○情報の収集 ・三成小の児童に田面船の認知度についてアンケートを作成して実施し、認知している割合を導き出す。（3）	○			○作成した単元の課題から、アンケートによって知りたいことを決め、結果から課題を焦点化している。
三	○整理・分析 ・アンケート結果をもとに、発表の内容や方法を考える。（4）（本時6／18） ・小グループに分かれ、発表原稿や資料を作成する。（6）		○		○田面船について全校に知らせるためには、どのような方法がよいか、伝えたいテーマと対象者とを関連づけて発表の方法や内容を考えている。
四	○まとめ・創造・表現 ・児童集会で発表したり、作成した資料を配付したりして、調べたことや伝えたいことを発表する。（時間外） ・田面船の認知度について再度アンケートを全児童にとり、自分達の学習活動の成果と課題を考える。（2）	○			○田面船について、全校児童に伝えるという相手意識を持ち、内容や方法を考えて発表している。 ○自分達の発表活動の成果を整理している。

五	○ふり返り ・単元全体の学びをふり返り,学習によって身に付けた学習の方法や発表の手段を整理し,自分の成長を自覚する。(1)		○	○自分の学びを客観視し,他者への影響を実感することで自己有用感を持つようとするとともに,これからの学びに身に付けた事柄を今後の学習に生かそうとしている。
---	--	--	---	--

〈単元出口の意識〉

全校児童に伝えることで,尾道の伝統について知ってもらえたな。地域の大切な伝統だから,みんなに知ってもらうことで,なくしたくないと思ってもらえて良かった。これからも地域について考え,地域の一人としてできることを考えていきたいな。

4 本時の展開

(1) 本時の目標

アンケート結果から,全校児童に伝えたい内容を絞り,決めることができる。

(2) 本時の展開 (下線部が授業仮説との関連活動)

学習活動 「主な発問」(思考の場) ・予想される児童の反応	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した 児童への指導の手立て	○評価規準 〔観点〕 (評価方法)
1 前時に導き出した,アンケート結果を提示し,学習課題を決める。 「三成小のみんなはあまり田面船のことを知らなかったね。みんながこれから取り組んだらいいことは何だろう。」 ・どんなことを知らせるのかを決めたい。 ・知らせる方法も考えたほうがいいと思う。 ・まずは内容を決めないといけない。	◇学校や地域の公民館に模型があるにも関わらず,ほとんどの児童が田面船について知らない,興味もないという現状から,児童の期待値とのギャップに対面させ,学習課題につなげる。	
三成小のみんなにはどんな内容を伝えたら良いか考えよう。		
2 2学期に発表したことアンケート結果を参考に,全校児童に伝えるべきことを整理する。 (個人→グループ→全体)	◇ブレインストーミングの手法で,全校児童に向けて伝えたいことをなるべくたくさん考えさせる。その際,後で取捨選択させるために,付箋に書かせておく。 ◆前時に整理したアンケート結果や,2学期に地域や市に向けて発表した内容を想起させ,本時の学習の参考にさせる。 ◇個人で書いた付箋をグループで話し合う際に見せながら話すようにさせ,他者の意見を取り入れたいときは付箋の色を変え,付箋に意見者の名前も書かせることで,児	

<p>「三成小のみんなに伝えるべきことはどんなことだろう。」</p> <p>田面船そのものについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田面船がどんなものなのかを伝える。 ・三成で田面船がどのように扱われてきたのかを伝えたい。 <p>歴史や文化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の地域でも似た行事があったことを知ってほしい。 ・なぜ船なのかについて考察したことを伝えたい。 ・田面船にこめられた願いを知ってもらったら良い。 <p>3 伝えたい内容の優先順位を考える。(個人→全体)</p> <p>4 本時の学習をまとめる。</p>	<p>児童自身に誰の意見を取り入れたのかを明確にさせるとともに、授業者がグループでの話し合いを評価する際の資料にする。</p> <p>◇全体で話し合わせる際の板書にも、児童が個人やグループで思考した際に用いた付箋を模した短冊を用い、意見をグルーピングしやすくする。</p> <p>◇児童の意見を板書上で動かしながら整理し、次の活動に生かせるようにしておく。</p> <p>◇座標軸を用い、自分が伝えたいことの優先順位を考えることで内容を精選させる。</p> <p>◆1つしか伝えられないとしたら何を選ぶか助言し、最も伝えたいことを決めさせる。</p> <p>◇個人思考の後で全体で意見を交流することで、個人の意見を確認なものにしたり考え直したりするための参考とさせる。</p> <p>◇本時の学習課題について、伝えたいこととその理由を自分の言葉でまとめさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・田面船について伝えたいことを、相手意識を持って決めている。 <p>[思] (ノート, 行動観察)</p>
<p>(例) 三成小のみんなには、田面船に込められた人々の願いについて伝える。なぜなら、願いこそが昔の人々が大切にしてきた理由であり、受け継がれてきた要因であるから。</p>		
<p>5 本時を振り返り、次時につなげる。</p>	<p>◇本時の学習で参考になった友達の意見について、自分の学び方について振り返らせるとともに、次時に学びたいこと、考えたいことを考えさせる。</p>	

(3) 板書計画

